第6回和牛甲子園

GLORY AUTHOR

- WAGYU -

KYOTO NOGEI

第6回和牛甲子園

和牛でつなぐ地域の輪

～チーム京都の挑戦～

京都府立農芸高等学校　畜産流通コース

Kyoto Prefectual NOGEI High School　Distribution of Livestock Course

京都の伝統的な食文化

写真:「京都府産和牛肉」株式会社 京都協同管理

京都の伝統的な食文化

写真:「国牛十図」藤原貞幹序　安永7(1778)年
(東京大学史料編纂所蔵)

京都の伝統的な食文化

牛肉消費量

順位	市町村	単位:グラム
1位	奈良市	9,951
2位	大阪市	9,724
3位	山口市	9,693
4位	堺市	9,638
5位	広島市	9,450
6位	京都市	9,355
7位	大津市	9,150

全国平均 6,821

牛肉への支出額

順位	市町村	単位:円
1位	京都市	39,581
2位	大津市	38,835
3位	奈良市	37,295
4位	堺市	35,431
5位	和歌山市	34,562
6位	大阪市	33,954
7位	津市	32,799

全国平均 22,688

参考:総務省統計局 家計調査「2019年(令和元年)~2021年(令和3年)平均」

和牛甲子園を目指して

「幸紀夫」号

生年月日：2020.2.14
性別：去勢
血統：幸紀雄×隆之国×安糸福

「直久隆」号

生年月日：2020.4.28
性別：去勢
血統：直太朗×安福久×隆之国

「文月」号

生年月日：2020.7.5
性別：去勢
血統：福之姫×隆之国×百合茂

和牛でつなぐ地域の輪

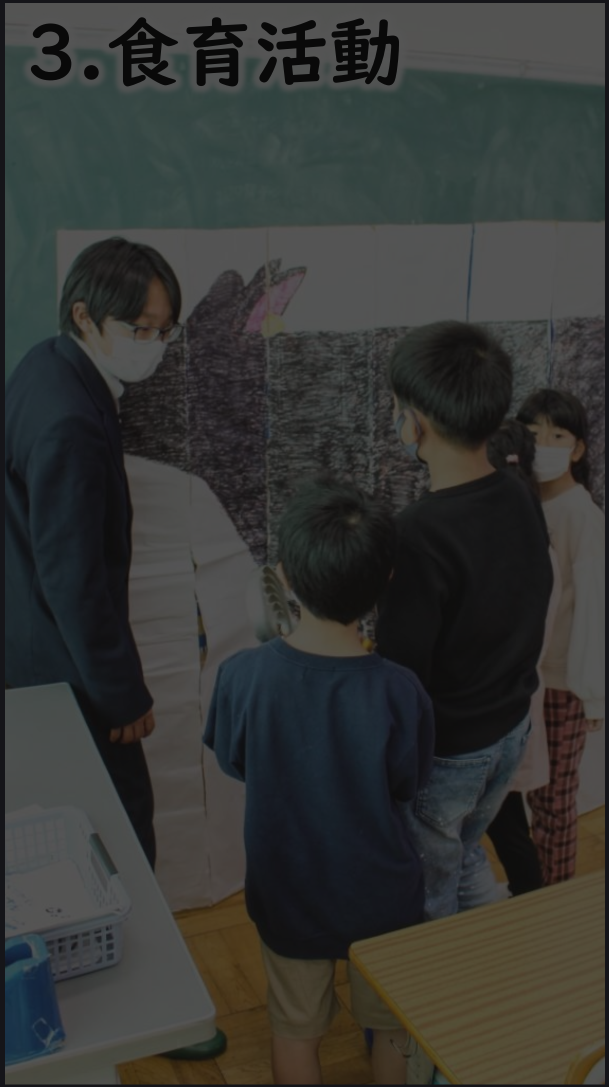
～チーム京都の挑戦～

和牛甲子園を目指して

1.地域資源活用

2.クラウドファンディング

3.食育活動



“京都を笑顔に”

地域資源活用

高品質牛肉の生産を目指して

挑戦！ オレイン酸値向上&エコフィード実践

京都府産

“飼料米”“酒粕”

地域資源活用

“飼料米” 京都府農林水産技術センター畜産センター（綾部市）

京都府“福知山市”産の飼料米
約3トン提供していただいた

地域資源活用

“酒粕” 佐々木酒造株式会社（京都市上京区）

代表取締役 佐々木晃氏と酒粕を受け取る2人
「酒粕贈呈式」の様子（2021年10月）

地域資源活用

“酒粕”

【課題】① 水分含有量の多さ　② アルコール臭気

▶▷ 課題解決に向けて

地域資源活用

失敗① そのまま

嗜好性の問題
水分量と匂い

失敗② 天日干し

乾燥時間が長い
天候に左右される

失敗③ 粉砕給与

粉砕機の破損
生産量に課題

地域資源活用

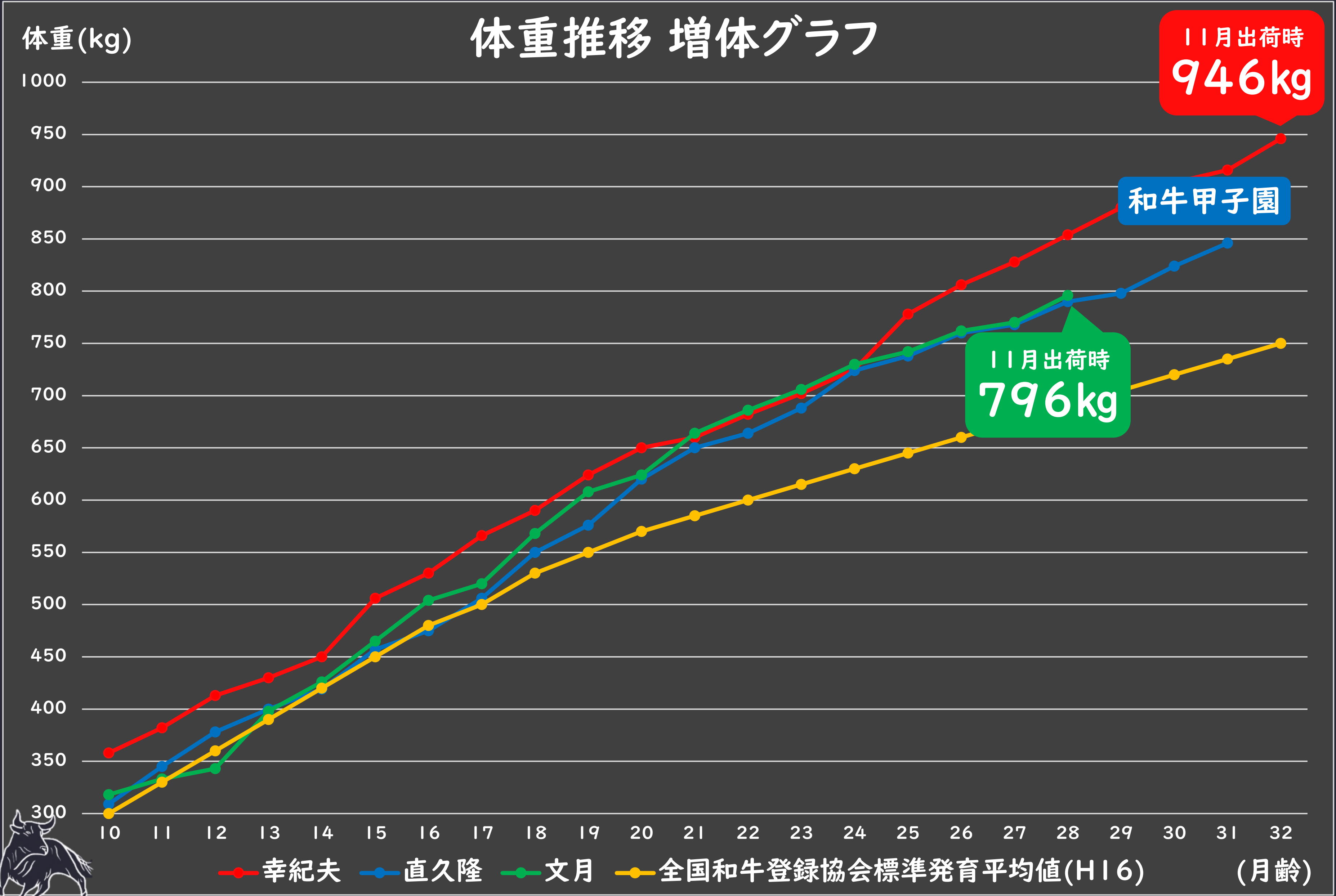
たどり着いた“混合給与法”

地域資源活用

たどり着いた“混合給与法”

嗜好性抜群！

地域資源活用



体重推移 増体グラフ
体重(kg)
1000
950
900
850
800
750
700
650
600
550
500
450
400
350
300
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
(月齢)
11月出荷時
946kg
和牛甲子園
11月出荷時
796kg
幸紀夫
直久隆
文月
全国和牛登録協会標準発育平均値(H16)

地域資源活用

11月出荷「枝肉成績」

平均オレイン酸値 “54.5%”

地域資源活用

京都府農林水産フェスティバル

11月26・27日開催　in 京都パルスプラザ

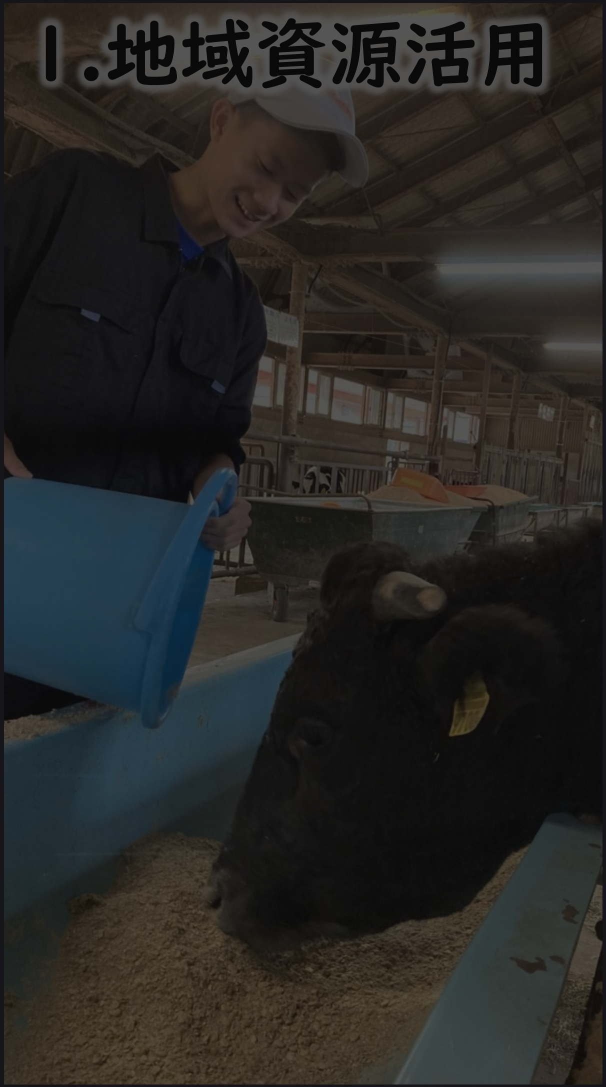
全農京都府本部 × 佐々木酒造株式会社 × 京都農芸和牛

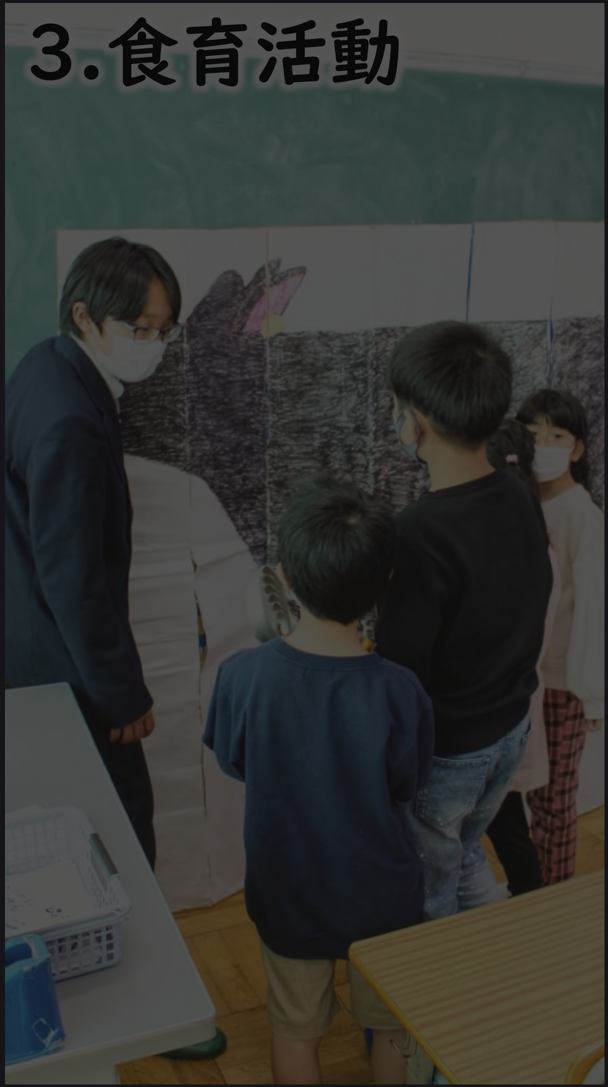
地域資源活用

今後の課題

① 安定生産
② ブランド化

和牛甲子園を目指して





“京都を笑顔に”

クラウドファンディング

私たちが生産した和牛肉を
地域の子どもたちに食べてもらいたい

クラウドファンディング

畜産振興

笑顔

地域活性化

クラウドファンディング

JA全農京都と連携！

目指せ和牛甲子園！～高校生が作った和牛肉で地域に笑顔を届けたい～ 限定公開

KYOTO_WAGYU_KOSHIEN　フード・飲食店　京都府

¥ 現在の支援総額

0円

0%

目標金額は800,000円

支援者数

0人

募集終了まで残り

28日

公開されたらメールでお知らせ

10月12日（水）から11月9日（水）までの28日間

クラウドファンディング

大反響!!

小中学生に畜産授業

食育アピール、給食提供も

京都府立農芸高校（南丹市）の畜産流通コースの生徒が、畜産の魅力と和牛肉のおいしさを小中学生に伝える食育活動を行う。JA全農が主催する来年1月の「和牛甲子園」への初挑戦を前に、11、12月に同市の小中学校8校へ食育の出前授業を行い、学校で育てた和牛肉を給食に提供する。「和牛飼育の取り組み内容」と「枝肉の肉質」の2部門で競う和牛甲子園へ、独自の取り組みをアピールする。

和牛甲子園出場の京都農芸高

同コースの3年生8人は和牛甲子園出場を目指して、1年生の時からチームで丹精して牛を育ててきた。餌には佐々木酒造（京都市）の酒かすや府畜産センターの飼料用米といった地域資源を活用。飼料価格の高騰にも対応してきた。

和牛甲子園に出場する3年の荒井さん㊧と岸本さん。地元小中学生への食育活動にも挑戦する

荒井邃雅さん（18）は「絶対勝つぞ、の気持ちで挑みたい」と意気込む。指導してきた三宅直人教諭も「3年間の集大成」と活躍に期待する。

小中学生への出前授業では同コースの2、3年の14人が、小学校低、高学年と中学校向けの3チームに分かれ、牛肉ができるまでの過程、和牛飼育の楽しさや難しさ、畜産という職業などについて教える。小学校高学年に授業する岸本竣さん（18）は「畜産や農業に興味を持ってもらえるようにしたい」と話す。

学校給食に提供する牛肉には、和牛甲子園に向けて育ててきた3頭の候補牛のうちの2頭を用いる。牛丼やすき焼き風煮込みなどのメニューを無償で提供する。

◇

JA全農京都は同校と連携して、高校生の活動を支援するクラウドファンディング（CF）を行っている。資金は食育活動や和牛甲子園出場、牛肉の販売活動などの費用に使う。返礼品には同校で育てた和牛肉の他、都ホテル京都八条の食事券などを用意している。詳細はCFサイト「キャンプファイヤー」（https://camp-fire.jp/projects/view/612554）に掲載。（京都）

日本農業新聞（近畿・北陸版）
10月21日掲載

京都農芸がクラウドファンディング

和牛で地域に笑顔を

11月9日まで支援受付中

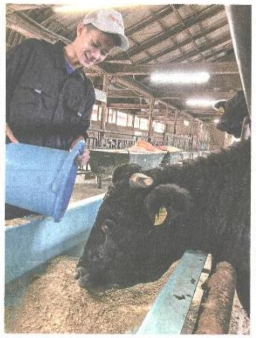
『高校生が作った和牛肉で地域に笑顔を届けたい！』――。京都府立農芸高校（南丹市）の畜産流通コースの生徒たちが、畜産関連企業・団体と連携して地域活性化を図る取り組みを展開している。これは、第6回和牛甲子園（JA全農主催）を目指したプロジェクトの一環であり、「和牛でつなぐ地域の輪～チーム京都の挑戦～」として、地元小中学校への食育出前授業・学校給食への牛肉無償提供・取り組みに係る経費等の支援を募る「クラウドファンディング（以下CF）」を実施している。

和牛飼育を手がけるのは同コースの生徒たち。毎日のエサやりはもちろん、ブラッシングや観察なども徹底的に行い、愛情込めて飼育している。生徒のひとりは「大変なことも多いですが、たくさんのやりがいがあって本当に楽しいです。私たちが育てる和牛のお肉をぜひ沢山の方々に食べてほしいと思っています。最後まで一生懸命育てていきますので、この取り組みへの応援をよろしくお願いします」と話す。

育てた和牛3頭のうち2頭は、11月に出荷し地域に還元する。残り1頭は1月の和牛甲子園に出場する予定で、日頃の成果を十分に発揮し『最優秀賞』を目指す。

JA全農京都と連携し実施するCFは、3千円から支援可能。額に応じてハンバーグ用の挽き肉や上スライス、同校の和牛肉を提供するレストランのディナー券などを返礼品とする。支援で得た資金は、▽学校給食への食材提供費用▽和牛甲子園の活動費用▽各種販売会等の実施・運営費用――等に充てる。

CFの実施は11月9日（水）まで。返礼品は12月上旬より順次お届け予定。支援ページはCF支援サイト「CAMPFIRE」にて掲載中。



【上】畜産流通コースの皆さん。肉用牛などの飼養管理・繁殖技術を学び、農芸ブランドの生産を目指す【右】毎日の作業は愛情をかかさない

全酪新報（全国酪農協会）
11月1日掲載

クラウドファンディング

皆様のご支援により

現在の支援総額

1,666,500円

208%達成

終了

目標金額 800,000円

支援者数 132人

クラウドファンディング

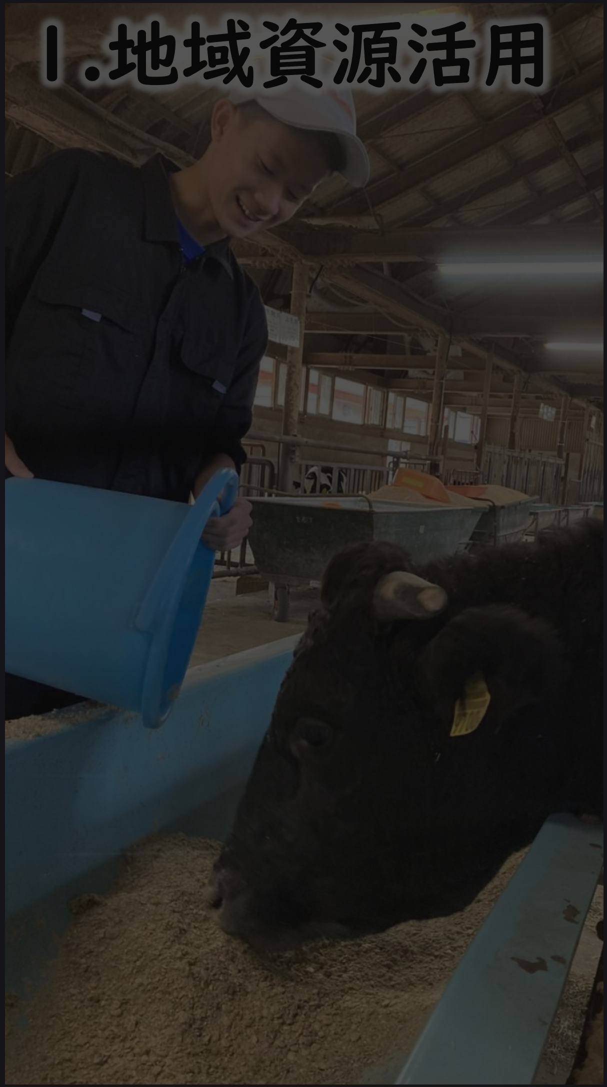
クラウドファンディング

今後の課題

牛肉の需要増加
消費量拡大に向けて

和牛甲子園を目指して

1.地域資源活用



2.クラウドファンディング

3.食育活動

“京都を笑顔に”

食育活動

約2400名の小・中学生を対象に

南丹市教育委員会と連携！

食育活動

約2400名の小・中学生を対象に

クラウドファンディング支援で“牛肉提供”

食育活動

約2400名の小・中学生を対象に

クラウドファンディング支援で“牛肉提供”

食育活動

牛丼

すき焼き

本校で生産した和牛肉が
一人あたり45g使用された

食育活動

食育活動

食育活動

食育出前授業の実施

日時	学校名	学年・組	備考
11月4日	園部小学校	3年1・2・3組	3時間
11月7日	美山中学校	1年生	1時間
11月7日	美山小学校	3年生・5年生	2時間
11月9日	八木東小学校	1～6年生	2学年ずつ3時間
11月15日	園部第二小学校	5年生1・2組	2時間
11月16日	八木西小学校	1・2年生	2時間
11月22日	殿田中学校	1・3年生	2時間
12月8日	八木中学校	2年生1・2組	2時間

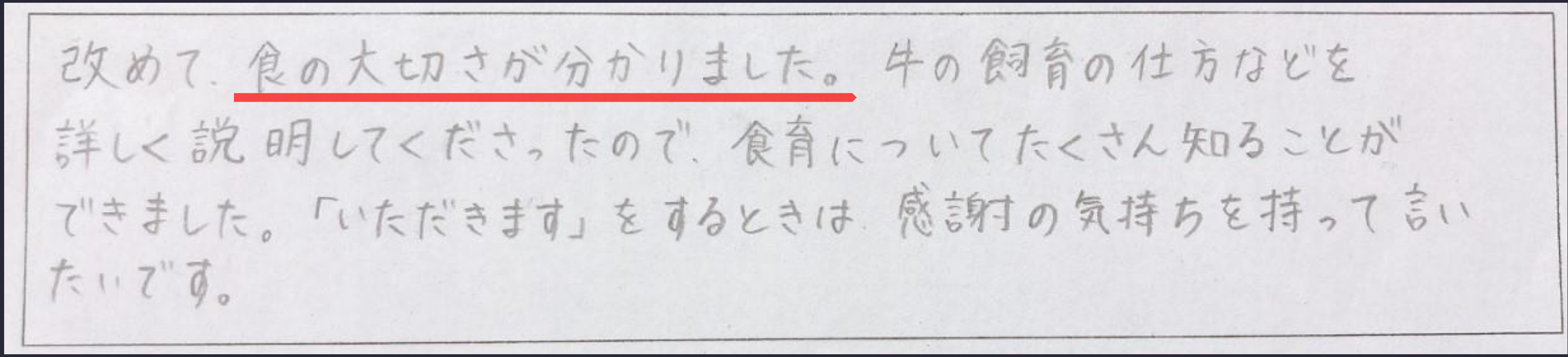
全17時間

食育活動

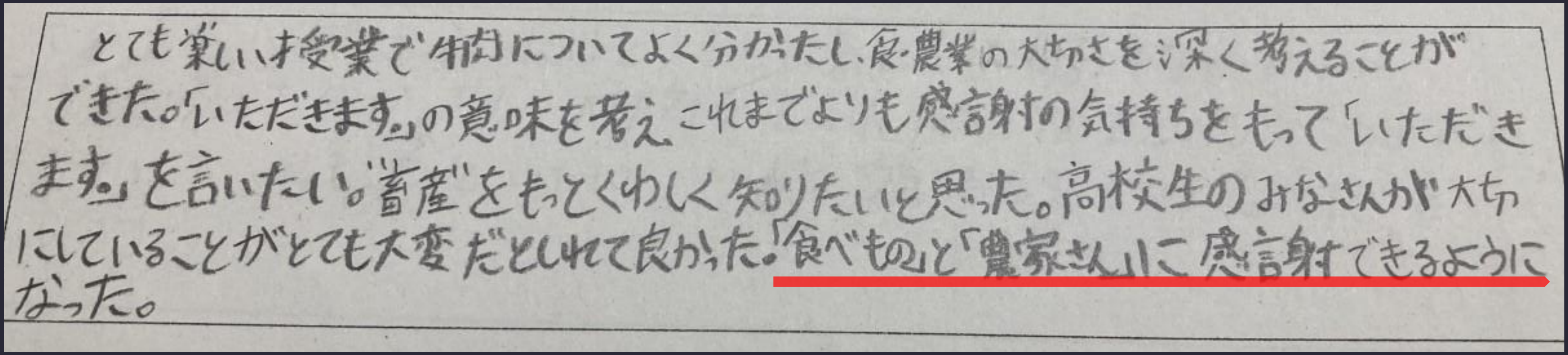
“おいしい牛肉ができるまで”

食育活動

アンケートの記述に



改めて、食の大切さが分かりました。牛の飼育の仕方などを詳しく説明してくださったので、食育についてたくさん知ることができました。「いただきます」をするときは感謝の気持ちを持って言いたいです。



とても楽しい授業で牛肉についてよく分かったし、食・農業の大切さを深く考えることができた。「いただきます」の意味を考え、これまでよりも感謝の気持ちをもって「いただきます」を言いたい。"畜産"をもっとくわしく知りたいと思った。高校生のみなさんが大切にしていることがとても大変だと知れて良かった。「食べもの」と「農家さん」に感謝できるようになった。

食育活動

アンケートの記述に

食や農への
関心を高める！！

食育活動

未来を担う子供たち

食育活動

未来を担う子供たち

食育活動

食育活動

京都農芸の決意！

まとめ アンケート調査　総勢489名

Q.このプロジェクトは“笑顔”につながりましたか

「地域資源活用」

【対象】
(1) 佐々木酒造
(2) 畜産センター(略称)
(3) JA全農京都
(4) 京都府畜産課(略称)
(5) 販売会でのお客様

「クラウドファンディング」

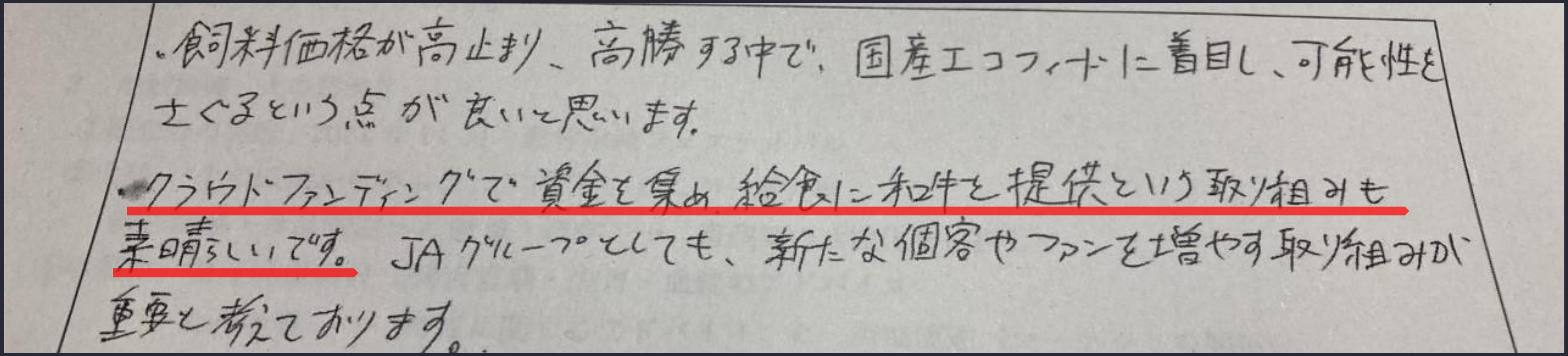
【対象】
(1) 支援してくださった方
(2) JA全農京都
(3) 株式会社 京都協同管理
(4) 京都食肉市場株式会社
(5) 京都府畜産課(略称)

「食育活動」

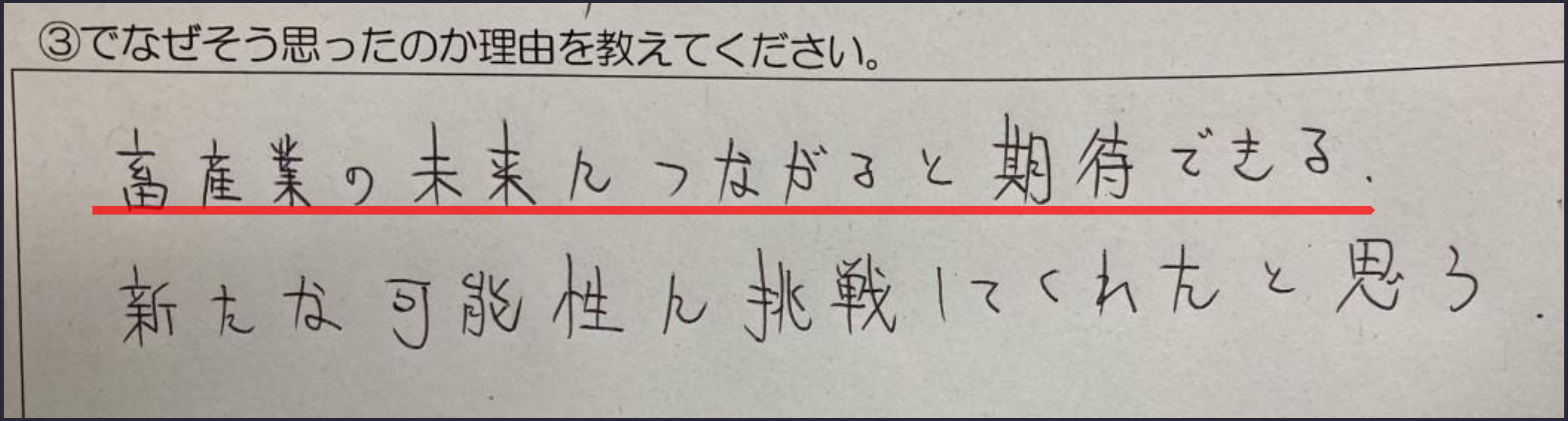
【対象】
(1) 南丹市立小学校 生徒・先生
(2) 南丹市立中学校 生徒・先生
(3) 南丹市教育委員会

まとめ　アンケート調査

アンケートの記述に


・飼料価格が高止まり、高騰する中で、国産エコフィードに着目し、可能性をさぐるという点が良いと思います。

・クラウドファンディングで資金を集め、給食に和牛を提供という取り組みも素晴らしいです。JAグループとしても、新たな顧客やファンを増やす取り組みが重要と考えております。


③でなぜそう思ったのか理由を教えてください。

畜産業の未来んつながると期待できる。

新たな可能性ん挑戦してくれたと思う。

まとめ　アンケート調査

笑顔

まとめ

和牛に出会えてよかった

まとめ

財産

まとめ

ご支援・ご協力をいただいた企業・団体等の皆様

- ○ JA全農京都
- ○ 京都府農林水産部 畜産課
- ○ 京都府農林水産技術センター畜産センター
- ○ JA京都酪農センター
- ○ 京都食肉市場株式会社
- ○ 南丹家畜衛生保健所
- ○ 佐々木酒造株式会社
- ○ 都ホテル 京都八条
- ○ 株式会社 京都協同管理
- ○ 南丹市教育委員会
- ○ 南丹市立小・中学校(全11校)
- ○ 株式会社ふるらぶ 代表取締役 片桐 新之助 氏
- ○ CAMPFIRE支援者の皆様 保護者の皆様 etc.

まとめ

チーム京都の挑戦！

京都の和牛で

多くの人が**笑顔**になるように

まとめ

“チーム京都”